

## 1.0 増加の続く輸出・輸入

### (貿易をとりまく世界経済の状況)

2006年のアメリカでは、住宅投資の伸びが鈍化するとともに設備投資がマイナスに転じた一方で、個人消費の伸びが高くなったことから、経済成長率は3.3%と、05年とほぼ同程度となった。アジアでは、中国を中心に景気拡大が続いた。06年の北東アジアの経済成長率は8.6%となり、05年の7.9%より伸びを高めた。06年後半にはIT関連財輸出の鈍化がみられたものの、引き続き中国を中心に景気は拡大した。ASEAN各国は、輸出が高い伸びを示したことなどから、06年の成長率は5.8%と、05年の5.4%より伸びを高めた。ユーロ圏では、05年末にかけてやや景気は減速したが、06年に入り再び回復力を強め、世界経済の回復を背景に生産や輸出・設備投資が拡大し、06年の経済成長率は2.8%と、05年の1.3%より伸びを高めた。

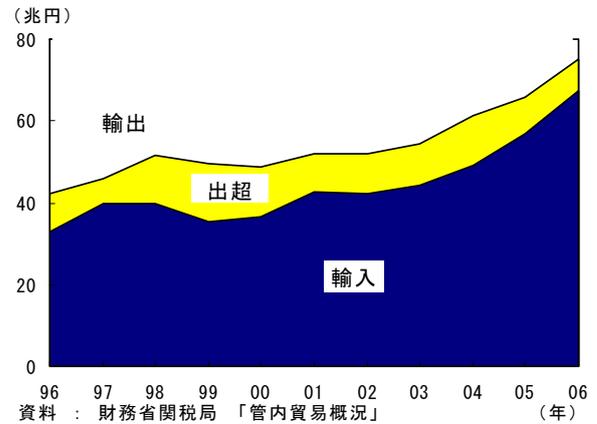
### (全国の貿易概況)

わが国の経済は、2005年半ばに踊り場的な状況を脱した後、2006年央頃までは企業部門、家計部門、海外部門がバランスよく回復し、順調に回復を続けてきた。こうした背景の下、06年のわが国の貿易は、輸出額は自動車、半導体等電子部品等が増加し、対前年比14.6%の増加となった。また、輸入額は資源価格の高騰などにより原油、非鉄金属等が増加し、18.3%の増加となった。この結果、輸出入総額の差引額は前年より9.2%の減少となった。

なお、対ドルの円相場は05年110.21円から06年116.31円に、対ユーロの円相場は05年136.89円から06年146.14円に、ともに円安に動いた。

輸出物価指数(円ベース)は、円高により04年は1.4%低下したが、円安などの影響により、05年2.0%、06年4.6%と2年連続の上昇となった。また、04年に4.2%と、3年ぶりに上昇した輸入物価指数(円ベース)は、原油価格の高騰及び円安などの影響を受け、05年13.1%、06年16.4%と、3年連続して上昇した(図表10-1)。

図表10-1 全国貿易額の推移

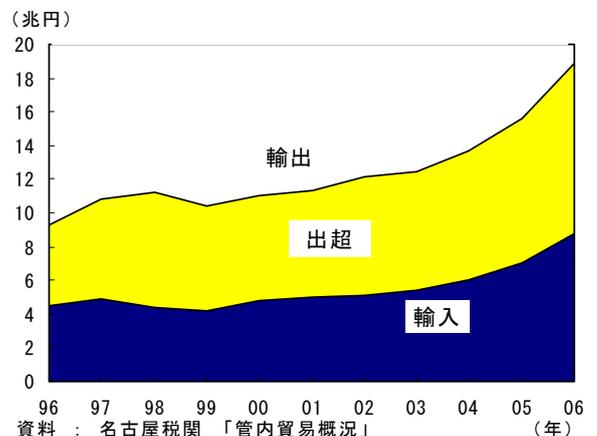


### (名古屋税関管内の貿易概況)

このような状況の中で、名古屋税関管内の貿易額等の動向についてみると、2006年は輸出入とも7年連続で増加し、管内貿易額は全国貿易額の19.4%を占めた。

このうち輸出額は18兆8553億円で全国の輸出額の25.1%を占め、税関別順位は、成田空港、東京港を含む東京税関を上回り、2年連続で1位となった。輸入額は8兆7525億円で、全国の輸入額の13.0%を占めた。輸出と輸入の差引額は、10兆1028億円(前年8兆5616億円)の黒字(輸出超過)となり、全国の貿易黒字額(黒字税関計)に占める割合は前年より6.2ポイント上昇し、72.0%となった(図表10-2)。

図表10-2 管内貿易額の推移



### (7年連続の増加となった輸出)

2006年の管内輸出についてみると、輸出総額は前年比20.6%増の18兆8553億円となり、7年連続の増加となった。

管内の輸出先を主要地域(国)別にみると、アメリカ向けは、自動車などが増加したことから同20.8%増となり、3年連続の増加となった。アジア向けは、自動車の部分品、半導体等電子部品、音響・映像機器の部分品などが増加したことから、同19.6%増と5年連続の増加となった。うち中国向けは、自動車の部分品、半導体等電子部品、電気回路等の機器などが増加し、同33.7%増と7年連続の増加となった。EU向けは、自動車、自動車の部分品などが増加したことから、同14.0%増と6年連続の増加となった。この結果、管内の輸出先の構成比は、アメリカ33.4%、アジア29.0%、うち中国9.7%、EU17.5%、中東4.3%、その他15.8%となり、中国のシェアがわずかに拡大し、EUが縮小した。

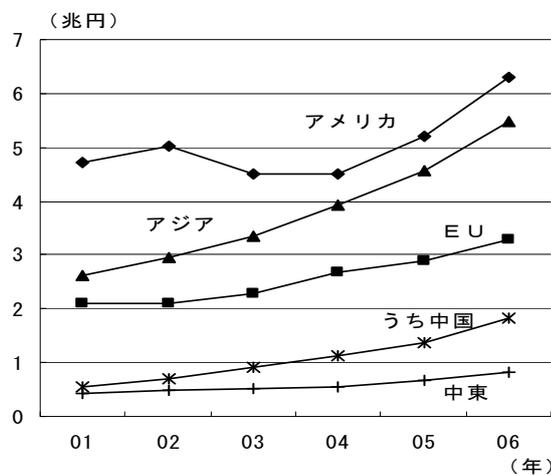
図表10-3 主要地域(国)別管内輸出額対前年増減率の推移

(単位: %)

年	アメリカ	アジア	うち中国	EU	中東
01	6.1	-2.4	14.7	3.9	21.5
02	6.3	12.9	31.2	0.0	15.3
03	-10.1	12.6	37.2	9.6	10.2
04	0.2	17.6	25.3	12.9	3.8
05	15.5	16.3	20.1	5.7	22.7
06	20.8	19.6	33.7	14.0	20.7

資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-4 主要地域(国)別管内輸出額の推移



資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

次に、主要品目別の動向をみると、自動車は、燃料高の影響から燃費の良い日本車の販売好調もあり、輸出台数は371万台で前年比19.4%増、輸出額は6兆8532億円で同26.7%増と3年連続の増加となった。自動車の最大の輸出先であるアメリカ向けは、3兆3730億円で同35.5%増、EU向けは、1兆721億円で同12.9%増となったが、アジア向けは、2679億円で同19.1%減となった。なお、2006年の管内の自動車輸出額は、全国の自動車輸出額の55.7% (前年54.5%) を占めている。自動車の部分品は、海外における自動車の生産の増加などから、同12.6%増の1兆6883億円となった。このうちアメリカ向けは4977億円で同0.1%減となったが、アジア向けは5339億円で同19.1%増、EU向けは2854億円で同15.7%増とそれぞれ増加した。ガソリンエンジンや船外機などの原動機は、アメリカ向けが同12.8%減だったが、アジア向け同13.9%増、EU向け同5.2%増となり、全体では8032億円で同5.0%増となった。二輪自動車類は、アメリカ向け同8.3%増、アジア向け同15.8%増、EU向け同9.8%増となり、全体では6312億円で同9.3%増となった。金属加工機械は、旺盛な海外の設備投資により、アメリカ向け同22.6%増、アジア向け同10.7%増、EU向け同2.0%増となり、全体では5152億円で同11.5%増となった。(図表10-3、10-4、10-5、10-6)。

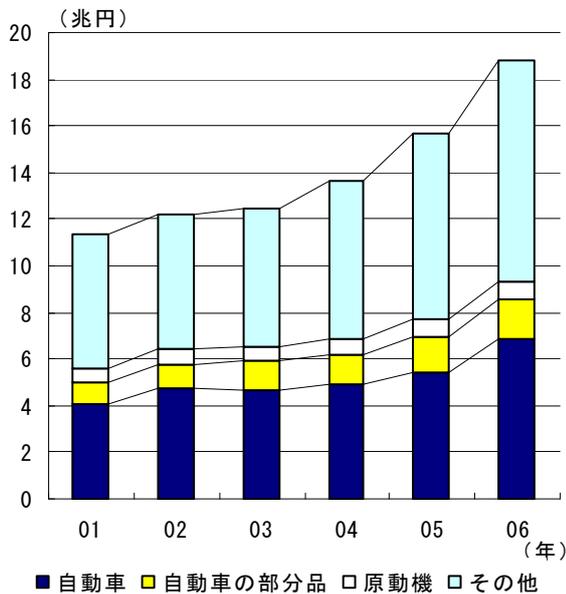
図表10-5 管内輸出主要品目の動向

(単位: 百万円、%)

順位	品名	2006年			前年 順位
		金額	対前年増減率	構成比	
1	自動車	6,853,186	26.7	36.3	1
2	自動車の部分品	1,688,274	12.6	9.0	2
3	原動機	803,161	5.0	4.3	3
4	二輪自動車類	631,190	9.3	3.3	4
5	金属加工機械	515,212	11.5	2.7	5
	輸出総額	18,855,329	20.6	100.0	

資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-6 主要品目別管内輸出額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

(7年連続の増加となった輸入)

2006年の管内輸入についてみると、輸入総額は8兆7525億円となり、前年比23.7%増で7年連続の増加となった。

管内輸入額の主要地域(国)別内訳をみると、アジアは、科学光学機器、石油ガス類、非鉄金属鉱などが増加し、同28.0%増と8年連続で増加した。うち中国は、衣類及び同付属品、原動機、魚介類(生鮮・冷凍)などが増加し、同24.2%増と7年連続の増加となった。中東は、主要品目である原油及び原油、石油ガス類などが増加し、同31.5%増と4年連続の増加となった。EUは、魚介類(生鮮・冷凍)、原動機、自動車の部分品、非鉄金属などが増加し、同7.0%増と4年連続の増加となった。アメリカは、非鉄金属、金属製品、原動機、自動車の部分品などが増加したことから、同21.9%増と、2年連続の増加となった。その結果、管内輸入地域(国)の構成比は、アジア48.2%、うち中国20.7%、中東19.4%、EU11.3%、アメリカ8.6%、その他12.5%となり、アジア(中国含む)、中東のシェアが拡大した。

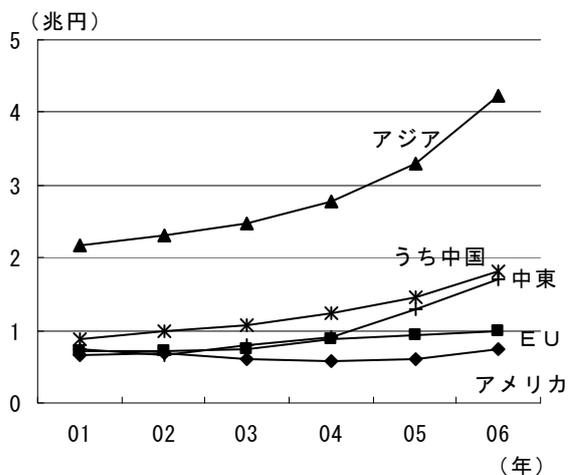
図表10-7 主要地域(国)別管内輸入額対前年増減率の推移

(単位：%)

年	アジア	うち中国	中東	EU	アメリカ
01	7.3	23.4	-0.8	7.3	-1.8
02	5.4	12.2	-10.2	-0.3	5.4
03	7.4	9.1	20.2	6.6	-10.1
04	12.4	15.2	14.4	13.4	-5.4
05	19.0	18.2	41.4	4.8	5.5
06	28.0	24.2	31.5	7.0	21.9

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-8 主要地域(国)別管内輸入額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

次に、主要品目別の動向をみると、原油及び原油は、数量は前年比5.1%減であったものの、1バレルあたりの取引価格(平均通関価格)が前年の50.39ドルから63.46ドルに高騰したことにより、輸入額は同26.7%増の1兆2879億円となった。増加寄与度では3.8%となり、輸入増加額に占める寄与率は16.2%となった。石油ガス類は、数量は同14.1%増であったが、原油高の影響から輸入額は同50.4%増の7910億円となった。自動車は、輸入台数は14万2千台で同4.0%減、輸入額は4131億円で同2.3%増となった(図表10-7、10-8、10-9、10-10)。

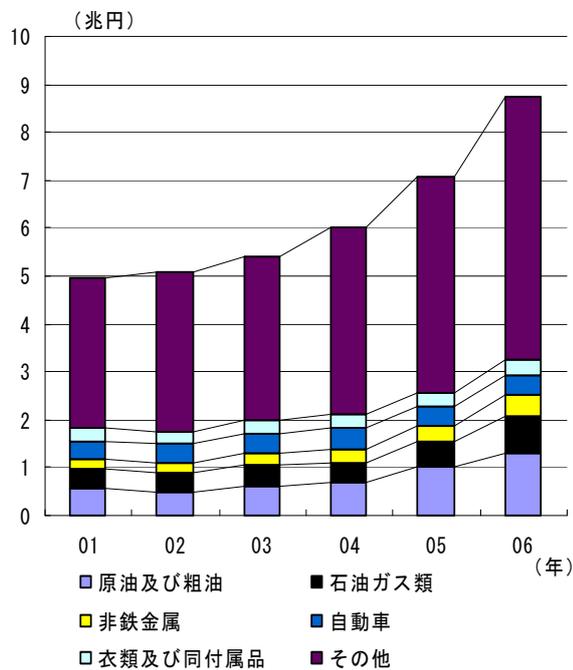
図表10-9 管内輸入主要品の動向

(単位：百万円、%)

順位	品名	2006年			前年 順位
		金額	対前年増減率	構成比	
1	原油及び粗油	1,287,949	26.7	14.7	1
2	石油ガス類	790,963	50.4	9.0	2
3	非鉄金属	435,362	38.6	5.0	4
4	自動車	413,084	2.3	4.7	3
5	衣類及び同付属品	323,135	11.4	3.7	5
輸入総額		8,752,497	23.7	100.0	

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

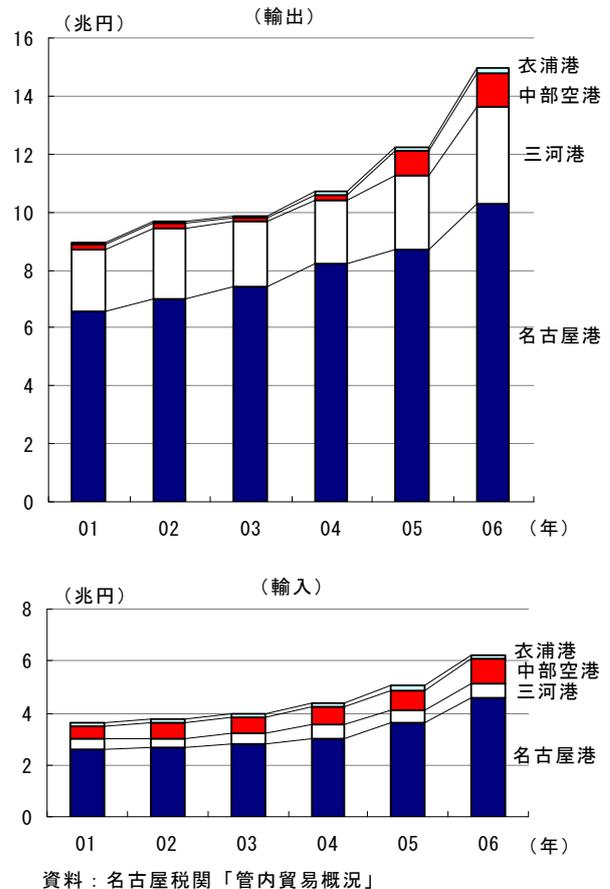
図表10-10 主要品目別管内輸入額の推移



(輸出額・輸入額ともに増加)

管内貿易港10港のうち、県内には名古屋港、三河港、中部国際空港、衣浦港の4港がある。2006年の輸出額は、4港合計で前年比22.4%増の14兆9546億円となった。輸出額は、最大港の名古屋港始め4港ともに増加したが、特に05年2月に開港し、名古屋空港時代より大きく輸出額を伸ばした中部空港が同41.1%増と引き続き増加、また、自動車輸出が好調なことから、三河港が同30.6%増となった。また輸入額は、原油及び粗油、石油ガス類などが大幅に増加し、同23.6%増の6兆2491億円となった。

図表10-11 県内港の貿易額の推移



県内最大貿易港である名古屋港の輸出額は10兆2991億円で前年比18.0%増、輸入額は4兆5686億円で同26.6%増と輸出入額ともに7年連続の増加となった。名古屋港の06年の輸出品では、輸出額全体の41.7%を占める自動車及び自動車の部分品、ほかに金属加工機械などが増加した。輸入品は、石油ガス類、精密機器類、非鉄金属などが増加した。

なお、名古屋港は国内5大港（東京港、横浜港、名古屋港、大阪港、神戸港）の一つで、06年の輸出額は、海港では8年連続でトップとなり、わが国輸出額の13.7%を占めている。また輸入額は、海港では東京港に次いで第2位となり、わが国輸入額の6.8%を占めている。

名古屋港に次いで輸出額の多い三河港は、2006年の輸出額が前年比30.6%増の3兆3251億円となった。三河港の輸出総額の97.1%が自動車であり、また、輸出先はアメリカが90.7%を占めている。

図表10-12 県内港・国内五大港・主要空港の貿易額

輸出 (単位：億円、%)

順位	港名	輸出額	対前年増減率	全国比
1	成田空港	119,640	12.5	15.9
2	名古屋港	102,991	18.0	13.7
3	横浜港	77,980	9.0	10.4
4	神戸港	57,457	11.3	7.6
5	東京港	50,272	7.3	6.7
6	関西空港	44,814	10.9	6.0
7	三河港	33,251	30.6	4.4
8	大阪港	29,425	16.8	3.9
13	中部空港	11,435	41.1	1.5
41	衣浦港	1,827	35.7	0.2
全国計		752,462	14.6	100.0
県内港計		149,504	22.3	19.9

輸入 (単位：億円、%)

順位	港名	輸入額	対前年増減率	全国比
1	成田空港	121,695	11.4	18.1
2	東京港	69,858	14.0	10.4
3	名古屋港	45,686	26.6	6.8
4	大阪港	38,810	13.9	5.8
5	横浜港	38,688	15.6	5.7
7	千葉港	38,090	20.6	5.7
8	関西空港	28,667	9.9	4.3
16	中部空港	9,422	18.4	1.4
22	三河港	5,472	13.9	0.8
45	衣浦港	1,911	10.5	0.3
全国計		673,443	18.3	100.0
県内港計		62,491	23.6	9.3

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-13 名古屋港貿易額の主要品目別・国別

対前年増減率・構成比

名古屋港

輸出 (単位：%)

品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
自動車	22.2	28.8	石油ガス類	59.3	9.3
自動車の部分品	13.2	12.9	非鉄金属	40.0	8.4
原動機	8.6	4.6	原油及び粗油	18.8	7.5
金属加工機械	12.3	4.5	衣類及び同付属品	12.2	6.2
事務用機器	9.3	3.0	精密機器類	115.5	4.9

輸入 (単位：%)

国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
アメリカ	7.9	17.7	中国	24.1	30.2
中国	21.9	10.9	アメリカ	31.4	9.0
タイ	16.0	4.6	韓国	60.2	7.9
オーストラリア	4.1	4.2	インドネシア	17.5	5.6
台湾	6.3	4.0	タイ	27.2	4.6

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

一方、輸入額は同13.9%増の5472億円となった。輸入総額のうち自動車は72.0%を占め、また、主な輸入元はドイツ、南アフリカ共和国、イギリスなどとなっている。なお、三河港の自動車輸入額は、全国の43.0%を占めている。

図表10-14 三河港貿易額の主要品目別・国別

対前年増減率・構成比

三河港

輸出 (単位：%)

品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
自動車	32.3	97.1	自動車	2.5	72.0
船舶類	17.5	1.0	原油及び粗油	478.9	5.1
鉄鋼のくず	22.4	0.3	鉄鋼のフラットロール製品	515.4	1.9

輸入 (単位：%)

国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
アメリカ	36.2	90.7	ドイツ	5.2	35.2
フィンランド	155.2	1.0	南アフリカ	-8.2	8.3
ベルギー	66.5	0.9	イギリス	-14.2	7.8

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

中部空港の06年の輸出額は、前年比41.1%増の1兆1435億円、輸入額は同18.4%増の9422億円となり、輸出入総額では同29.9%増の2兆857億円となった。主な輸出品は、半導体等電子部品、映像機器、電気回路等の機器、精密機器などであり、また、主な輸入品は、有機化合物、医薬品、事務用機器などである。

図表10-15 中部空港貿易額の主要品目別・国別

対前年増減率・構成比

中部空港

輸出 (単位：%)

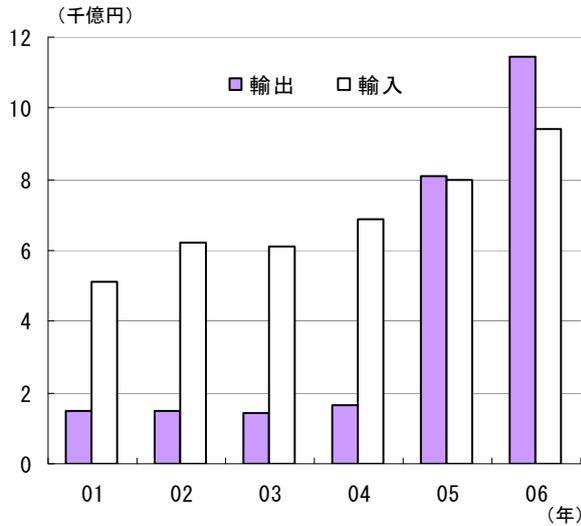
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
半導体等電子部品	43.3	23.9	有機化合物	8.6	14.7
映像機器	45.2	10.0	医薬品	-7.4	6.8
電気回路等の機器	50.0	7.0	事務用機器	-3.7	6.8
精密機器類	70.8	6.7	音響・映像機器(含部品)	-2.2	5.4

輸入 (単位：%)

国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
中国	98.8	26.2	台湾	29.0	18.0
アメリカ	16.7	15.3	中国	14.4	16.0
マレーシア	22.1	8.0	アメリカ	16.4	15.2
韓国	51.2	5.2	アイルランド	2.5	9.1

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-16 名古屋空港～中部空港 貿易額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

衣浦港の06年の輸出額は、前年比35.7%増の1827億円、輸入額は同10.5%増の1911億円となり、輸出入総額では同21.5%増の3738億円となった。主な輸出品は、管及び管用継手、鉄鋼のくず、航空機類、荷役機械などであり、また、主な輸入品は、石炭、石油ガス類、とうもろこし、魚介類（生鮮・冷凍）などである（図表10-11、10-12、10-13、10-14、10-15、10-16、10-17）。

図表10-17 衣浦港貿易額の主要品目別・国別  
対前年増減率・構成比

衣浦港

輸出			輸入		
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
管及び管用継手	26.1	60.3	石炭	9.8	33.2
鉄鋼のくず	25.0	10.4	石油ガス類	30.4	20.8
航空機類	63.2	9.1	とうもろこし	-19.9	11.9
荷役機械	56.0	7.2	魚介類（生鮮・冷凍）	67.4	6.1

輸出			輸入		
国（地域）名	対前年増減率	構成比	国（地域）名	対前年増減率	構成比
アメリカ	29.5	26.0	オーストラリア	2.3	19.2
中国	35.2	24.6	アメリカ	-3.1	17.9
韓国	37.0	11.9	インドネシア	18.2	12.9
シンガポール	81.3	6.7	アラブ首長国連邦	94.7	11.8

資料：名古屋税関「管内貿易概況」